

アグリ★ルネッサンス

農業経営きょうと

No.84
2011.夏



西途顕太郎さん（京丹後市）

クローズアップ この経営者

観光業から参入した挑戦者

チャレンジ 農業法人

京野菜で地域農業を拓く



クロスアップ

この経営者!

観光業から参入した挑戦者

—旅行客が満足する果樹で遊休農地を再生—

京丹後市網野町

北畿リゾート株式会社 社長

さいとけんたろう

西途顕太郎さん (67)



年商20億円の北畿リゾートを率いる西途社長

京丹後市網野町で旅館「海花亭」や大型土産物店「かに一番」を経営する北畿リゾート（西途顕太郎社長）が、新しい農業に挑戦している。地域の観光客数が減少を続ける中、新しい誘客の目玉をつくらうと、果樹やイチゴの栽培に取り組んでおり、遊休農地の大規模な再生利用につながっている。

通年で誘客をめざす

西途社長が農業を始めたのは3年前の2008年。同町俵野地区の2haの国営開発農地で、ハウス2棟のイチゴ栽培に乗り出すとともに、早生ミカン300本、ブルーベリー600本の苗を植えた。これとは別に、同町岡田地区の5haの府営開発農地でも、孟宗竹が繁茂していた土地を重機で1年間かけて整備し、ユズの苗400本、梅の苗200本を植えた。

イチゴのハウスでは、11月から6月まで、旅館の宿泊客向けに摘み取り体験を行っている。北畿リゾート農業事業部の責任者、吉岡清視課長（60）は「完熟したイチゴのおいしさや甘さは格別」と胸をはる。

数年後には、冬から春はイチゴ、7～8月はブルーベリー、9～10月はサツマイモ、11月はミカンやユズと、年間を通じて収穫できるようになり、通年で観光農業が可能になる予定だ。



土産物店「かに一番」のお菓子コーナーには自社のイチゴを加工した商品が並ぶ

収穫物は、とことん、利用

収穫した農産物は、旅館や土産物店で徹底的に利用する。

イチゴの場合、旅館では料理のデザートや、宿泊客向けの「いちご摘み体験」に活かす。土産物店では、パック売りするだけでなく、いちご大福やいちごジャムの加工販売まで自ら手がけ、規格外品を100%活用して廃棄ロスをゼロにする。もちろん、ゆずやブルーベリーなど他の果物でも同じような展開をするつもりだ。

同社では現在、自家製イチゴやサツマイモを使ったお菓子など約30品目の自社オリジナル加工品を製造、販売している。冬の一番人気の自家製さつまいもをつかったお菓子「橘おさつ」を始め、どのお菓子にも食品添加物は使っていない。

北畿リゾートの農業事業部は、正社員2名と地元農家から採用したパートで運営している。バーク堆肥や旅館から出るカニ殻などを利用した有機栽培にこだわり、除草剤や化学農薬を一切使わない。その結果、除草が間に合わなくなったときは、旅館や本社のスタッフも総出で農作業を行う。そうやって会社全体で農業部門を育成している。



多彩な加工品を製造する「お菓子工房 夕庵」の河井部長



「かに一番」の西途ダニエル店長



岡田地区の農地再生と事業構想を語る吉岡課長

リゾート農業の夢に向かって

観光業に立脚する北畿リゾートにとって、地域社会との共存共栄は、リゾート農業の構想を成功させる必須条件だ。

岡田地区では、有害鳥獣の被害を防止するため、農地と山の境界沿いに2.5kmの電気柵を設置し、隣接する地元農家の耕作地も含めた一帯の農地を囲った。有害鳥獣対策などの農業に必要なノウハウは、地元の農家から教わった。

また、農道や用水路の維持管理を引き受けることで、法面を無償で借りられることになった。今後、一面にミツバツツジなどの花木を植栽し、300mの藤棚や、ソバの花畑もつくる予定で、雄大な花の景色で観光ツアー客を呼び込む構想をすすめている。

西途社長の夢は大きい。「自然の美しい景観を山の中に創るとともに、町中の電線を地中化するなどして、この地を日本が誇れる高級リゾート地にしたい」と語る。

西途社長、現在67歳。まだまだ引退は先のような。

京野菜で 地域農業を拓く



代表取締役の村上静史さん



てんのお
株式会社 天野

綾部市物部町

- 資本金 2,600万円
- 経営内容 水稲5ha、京野菜2ha（賀茂ナス、万願寺トウガラシ、九条ネギなど）
- 役員 代表取締役 村上静史、常務取締役 岡阪巳左夫、取締役 松本直之
- 労働力 常時雇用 4名、パート 7名
- 設立 平成18年11月

「地域に貢献できる事業をやる」

綾部市中心から約10kmに位置する物部町天野（てんのお）。独自のスタイルで京野菜の生産・販売に取り組む株式会社天野（村上静史社長）のホームタウンだ。

天野を率いる村上社長は定年退職を1年半後に控えた2004年、30年間以上の勤め人生活に終止符を打ち、地元为天野に戻った。長年計画を温めていた賀茂ナス栽培に取り組むため、早速ハウス2棟を建てた。

これまで経験していなかった「ものづくり」の世界に、村上社長はすぐに魅せられた。しかし、すぐに疑問もわきあがった。「何のためにやっているのか?」。自分のためではなく、地域に貢献できる事業をしなければならない、という思いがわきあがり、地元住民を含む37人の株主から出資をうけ、社名を「天野」とす

る会社を立ち上げた。

法人化して事業を拡大し、力をつけることで、今後、担い手不足が心配される地域の農地の受け皿となる。現在、賀茂ナスのハウスは7棟に増え、さらに万願寺唐辛子のハウス2棟、シイタケの菌床栽培も手掛ける。露地では紫ずきん、黒豆、九条ネギ、エビイモなど、京野菜のラインナップを増やしている。水稲栽



新鮮な京野菜を産地直送



天野のスタッフたち。若い職員が増えた。

培面積は5ha、田植え・稲刈りの作業受託面積も1.5haある。「この地域では農地を荒らさない」というのが村上社長の誇りだ。

「若者雇用で将来に展望」

昨年からは緊急雇用対策制度も活用して、正社員雇用も始めた。24歳から40歳までの男性4人で、3人はIターン、1人はUターン者だ。みな、「農業をやりたい」という思いを持ってやってきた。朝4時半起きでの作業など肉体的な厳しさや、なんとか生活していけるだけの収入しかない経済的な厳しさを実感しながらも、真摯に農業に向き合う。村上社長は「若者が加わることで展望がひろがった」と顔をほころばせる。

「京野菜を武器に販売網は自ら築く」

株式会社にした以上、事業性はシビアに追及する。



直売部長兼京都営業所長の岡坂常務

「製造業などの他産業のように、農業も事業として成り立たせないと潰れてしまう」という危機感からだ。そのため、販売は農協出荷に頼らず、盟友でもある岡坂常務とともに自分たちの足で直接売り先を開拓する。営業が難しい京都市内は避けて、東京、名古屋、大阪、岡山、広島、山口の高級旅館や卸業者、高級志向の八百屋などの取引先に、畑から直接京野菜を発送する。

多くの取引先は「京野菜は古くて高い」というイメージを持っていたが、そこに、産直で新鮮な京野菜をより安い価格で提供すると提案し、取引成立につながったという。固定価格のため、相場変動の影響を受けることもなく、約3,000万円を売り上げる。

それでも、村上社長と岡坂常務は「現状に安住せず、もっと売上を伸ばしていく必要がある」と将来を見据えて語る。そのために、次の一手をどう打っていくのか。社員と地域に責任を負う法人経営者として、さらなる高みに挑戦する姿がそこにある。



新しく、椎茸の菌床栽培に挑戦

農業法人 ニュース

▲意欲ある農業者との交流会を開催

京都府農業法人経営者会議（岩見悦明会長）は、7月上旬に南北2会場で「農業法人と意欲ある農業者との交流会」(交流サロン)を開催しました。

この交流サロンは、農業経営者として日頃考えていることを気軽に話し合いながら、相互に「農・農連携」のネットワークを築いていく目的で行ったものです。

京都市の（株）こと京都（山田敏之社長）で開いたサロン（7/5）には14名、宮津市の（有）たんごワイナリー（大銅美則専務）で開いたサロン（7/7）には25名が集い、各参加者が経営の考え方や悩みを率直に意見交換して、中味の濃い交流会になりました。

同経営者会議では、今後も府内各地で交流サロンを開催し、意欲ある農業者の経営向上や新たな農業法人の設立を応援していくこととしています。



宮津市のたんごワイナリーで開いた交流会

▲150haの土地利用型経営を学ぶ

6月24日に鹿児島県志布志市から（株）さかうえの坂上社長を招いて、「幸せを実現する農業ビジネスを語る」をテーマに経営セミナーを開催しました。契約栽培を中心に中山間地域で150haの大規模経営を展開する坂上社長のモットーは、気象条件を言い訳にせず、約束した数量・品質・納期は100%守ること。そのために、数百カ所もの圃場の生産工程を管理するシステムを構築しています。日本を代表する農業経営者の迫力ある講演に、40名余りの参加者から、「刺激になった!」との声が多く聞かれました。

▲新役員を選出

京都府農業法人経営者会議は、6月24日の総会で、12名の新しい役員を選出しました。

会長に岩見悦明会長を再任し、ブロック毎の活動を強化するため、副会長を2名から3名に増員しました。また、これまで役員がいなかった中丹地域からも理事を選出し、12名の新たな役員を選出しました。

<新たな役員体制>

会 長	岩見悦明（杜若園芸）
副会長	山田敏之（こと京都） 外田洋一（おもしろ農民倶楽部） 山崎高雄（日本海牧場）
理 事	酒井省五（ほづ） 須知 猛（栄光食鳥） 大崎克己（オアシスランド） 塩見 彰（農夢） 大銅美則（たんごワイナリー） 吉岡正美（フルーツ王国やさか）
監 事	畑 勲（花トピア大原野） 村田喜昭（みどり農園）

担い手農業者の経営改善をサポート スペシャリスト紹介制度のお知らせ

京都府農業会議（京都府担い手育成総合支援協議会）は、認定農業者の経営改善や集落営農組織の法人化の支援等を行うため、中小企業診断士、税理士など26名のスペシャリストを登録し、担い手農業者や関係支援機関に紹介しています。

担い手農業者の経営改善をサポートするため、スペシャリストをご利用ください。

専門分野と支援内容

商品開発、食品加工、マーケティング、税務・会計、労務管理など。

※個別経営相談や研修会の講師として紹介します。

- 担い手農業者
- ・認定農業者
 - ・認定志向農業者
 - ・農業法人
 - ・集落営農組合



相談

立会

- 市町村
(地域担い手協議会)



スペシャリスト派遣

日程・内容調整

紹介の仕組み

市町村（地域担い手協議会）からの申請により、スペシャリストを紹介します

- スペシャリスト
- ・司法書士
 - ・税理士
 - ・中小企業診断士
 - ・社会保険労務士



事前調査

- 京都府農業会議
(府担い手協議会)



担い手支援スペシャリスト登録者一覧表

	登録者	専門分野
①法人設立指導 (司法書士)	酒井 立子	法人登記、不動産登記、成年後見手続等、司法書士業務全般
	田中 秀明	法人登記、相続等不動産登記
②税務・会計 (税理士)	井上 貴晴	税務・会計
	井本 篤志	税務・会計
	奥村 和義	税務・会計、法人化、経営全般、融資
	篠田 直明	税務・会計、経営指導
	関本 孝一	税務・会計、経営指導
	高岡 政義	税務・会計
	徳田 敏彦	税務・会計、経営助言
	西田 悟	税務・会計、法人化
	細見 均	税務・会計、法人化
③商品開発・マーケティング (中小企業診断士等)	岡原 慶高	事業計画、マーケティング、販路開拓
	小西 正伸	新規顧客開拓（販路開拓）、マーケティング、新規事業開発、起業家支援
	長井 利之	マーケティング、商品開発、販売・販路計画、店舗・業態開発 他

	登録者	専門分野
③商品開発・マーケティング (中小企業診断士等)	名測 浩史	マーケティング、WEBマーケティング
	松野 修典	経営戦略策定、マーケティング支援（食品通販等）、経営改善計画策定
	横倉 幸司	ビジネスモデル構築および経営戦略、マーケティング、経営管理システム構築他
④労務管理・人材確保 (社会保険労務士)	岩本 雅樹	労働及び社会保険の事務手続き、相談・指導
	中谷 章	労務管理
	西河 豊	労務管理、財務管理、海外取引(中国)
	橋本 将詞	人事、労務、社会保険（年金等）
	山崎 忠夫	経営全般、経営戦略、労務管理、人材開発
⑤食品加工支援	藤本 正信	地域の食材を中心とした商品の開発とその技術指導
⑥直売所経営支援	勝本 吉伸	農産物直売所の経営改善及び開設指導、農産加工品の開発支援
⑦集落営農支援	上田 栄一	集落営農、法人化
⑧農業融資	橋爪 隆	農業融資

頼れる 専門家 法人化請負人 が直接 伺います

(税務・会計のプロ)

みなさんの^{おもい}構想や悩みをお聞きし、課題解決の取り組みを応援します。

- 法人化請負人は、法人化に向けた情報提供や初期的なアドバイスをを行います。
- 具体的な税務相談、経営診断、税務申告、商品開発、農商工連携などの相談は、各分野のスペシャリストにつながります。
- 請負人は、関係機関・団体（府振興局・普及センター、市町村・JA）と連携して活動します。



私たちが **法人化請負人** です。
お気軽に御相談ください。



高岡政義
(中丹・丹後担当)



井本篤志
(中丹・丹後担当)



井上貴晴
(南丹・京都乙訓担当)



鹿野衛一
(京都乙訓・山城担当)

編集局から

◆今号から編集担当者が交代し、表紙と企画をリニューアルしました。今回、登場していただいた経営者は、いずれも農外から参入された方で、その経験を活かした経営手法に魅せられました。

◆スペシャリストと法人化請負人は、府内の農業経営者のみなさんに、ぜひとも御活用いただくことを願っています。

経営と農政がわかる

「全国農業新聞」

—お申込みは市町村農業委員会へ—

発行/2011年8月

発行者 京都府農業会議 (京都府担い手育成総合支援協議会事務局)

〒602-8054 京都市上京区出水通油小路東入丁子風呂町104-2 京都府庁西別館内 TEL.075 (441) 3660代